

令和6年度 読書感想文・感想画「宮崎県審査」反省と事務局からのお願い

審査全般・運営上

良い点

データ連携と作品確認の効率化: 支部代表の先生方から事前に「支部の入選者一覧表」をオンライン入力していただいたことで、審査当日の時間が短縮された。また、審査前の作品確認を徹底したことで、作品の紛失なくスムーズな審査が実現した。今後も継続する。

県審査作品数の調整: 県審査に提出いただく作品数は、一昨年度から若干増やして実施した。来年度以降もこの数を維持する予定。

支部審査日程調整の協力: 県審査会から逆算して支部審査会の日程を調整してもらったことで、非常に助かった。来年度も早めの会場確保など、協力をお願いする。

小学生作品の質の高さ: 小学生の作品は全体的にレベルが高く、選定に苦勞するほどだった。

改善が必要な点

提出規定の誤り・不徹底:

- ・支部ごとの県審査会提出作品数(学校数に応じた規定)の間違ひが多く見受けられた。名簿の名前や分類の間違ひによる規定数オーバーで再審査や作品の落選対応が発生し、審査遅延の原因となっている。
- ・応募票が付いていない作品や、応募票の内容と感想文の内容が合っていない作品もあった。
- ・**支部審査会の後、支部入賞者名簿と作品の確認を徹底してほしい。**また、各支部の入賞者数で県審査用名簿を作成しているため、勝手に数や枠を変えないでほしい。
- ・**全支部同じ名簿形式を使い、ホームページにある形式を必ず利用してほしい。**
- ・県事務局へのFAX書類の締め切りを守らない支部があった。賞状準備に影響するため、**期限厳守をお願いする。**
- ・応募総数など、提出書類の記入間違ひが多かったため、正確な数を確認して記入し、**全学校への連絡徹底と集約をお願いする。**→**毎年間違ひが多いので、今年からGooglefoamへの入力とする。**各学校から提出された用紙も県審査会に持参してほしい。

審査員の配置と連絡: 急な欠席により審査人数が減るなど、人数の配当に影響が出た。欠席連絡は早めをお願いし、できれば代理を立ててほしい。お弁当のキャンセル期限も守るようお願いする。

応募数の減少: 全体的に応募数が少ないと感じている。特に中学生と高校生の作品数が少ない状況だ。九州・山口地区では宮崎県の作品数は若干増加傾向だが、引き続き応募数の増加に努めてほしい。

応募票(代表・次点作品)について

改善が必要な点

記載漏れ・間違ひの多さ:

- ・学校所在地ふりがな、担当者名(フルネーム)、読んだ本の情報(初版発行年、発行年、著者名、ページ数、大きさ、定価、本体価格)の抜けや間違ひが多かった。**必ず子どもが読んだ本を手元に置いて正確な情報を記入させてほしい。**情報が不正確だと最終審査から外される可能性がある。
- ・**全ての項目について記入漏れがないか、支部審査の段階で確実に確認してほしい。**

参考資料の不備・不徹底:

- ・「感想文執筆に際し参考にした資料」欄が「有」なのに資料添付がない作品があった。参考にした資料はタイトルやアドレスだけでなく、実際に参考にした部分をプリントアウトし、**マーカー等で印を入れて作品に添付してほしい。**
- ・本を参考にした場合は応募票の読んだ本の情報と同じ項目をすべて記入し、一部を参考にした場合はコピーを付けて箇所を囲んでほしい。宮崎でしか手に入らない資料やインターネットで調べた場合も同様に、**どの部分を参考にしたかが分かるようにすべてコピーをつけて提出してほしい。**
- ・来年度は、**支部審査の段階で参考資料のコピーを付けて審査するよう徹底をお願いする。**

作品について(代表・次点作品)

改善が必要な点

誤字脱字・不適切な表現・付箋: 支部審査で誤字脱字の訂正がされないまま、代表や次点になっている作品があり、付箋がついたままのものもあった。**中央審査では誤字脱字があると審査対象外となる場合がある**

ため、県審査会後の訂正は不可とする。（他県では支部審査段階で不可としている。）

・文頭に「ですが」や「なので」が使われている、話し言葉の「じゃない」、「～だなあ」が連続する、といった不適切な表現が訂正されないまま提出されている。指導は？

・学校名が不記載の作品も。応募票に記載があれば問題ないが、作文指導上は記載を促すのが望ましい。

審査基準・方法:「お手紙文」形式の感想文の評価に迷う声や、文字の形を整えてほしいという要望。

・**文字数カウントの不統一**があったため、実務担当者会で配布済みの資料の字数の数え方を支部の先生方に配付し、徹底してほしい。

※句読点はそれぞれ一字、改行のための空白箇所は字数に数え、題名、学校名、氏名は字数に数えない

・中学校では、代表作品を決める際に課題と自由の作品をそれぞれ揃えて比較したいという意見があった。審査方法を再確認する必要があるだろう。

・昨年度の受賞作品を審査基準にしたいという声があったが、著作権の関係で資料として提示できない。審査は全国学校図書館協議会からの作品を書く視点や審査表に沿って行ってほしい。

・感想「文」の全国審査は感想「画」とは異なるため、県事務局で提出形式（各部門の提出点数）を変更することはできない。

支部審査から県審査会までの間に支部でお願いしたいこと

1.**出品作品の最終確認:** 県審査に出品する作品がすべて揃っているか確実に確認してほしい。手直しなどがあった場合でも、県審査会までに確実に作品が手元に戻るようしてほしい。県審査では、作品の不備があっても手直しさせる時間はなく、対象外とする場合がある（中央審査でも同様）。支部で書き直しをさせた場合は、字数の再確認もお願いする（過去に字数オーバーになった作品がある）。

2.**応募票の確実な記入確認:** 支部審査で、作品の字数、応募票の記入を確実に行ってほしい。最終（全国）審査会では、対象図書と参考にしたもの全てを揃えてから審査するため、応募票に不備があると審査ができなくなったり、審査対象外になったり、審査が途中でストップしたりと迷惑をかけてしまう。**まずは、支部審査に出される時に、先生方が子どもが読んだ本を実際に手にして確認していただきたい。**

以上の点を、支部内の全先生方にも徹底するよう連絡をお願いする。